



東南おきたま 雪若丸だより

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動 置賜地域本部 置賜農業技術普及課

高温に負けず、適正な葉色維持のため、**遅れず & 生育量に基づく穂肥施用を！**

1 生育状況（6月30日現在）

川西町の圃場では 6/21 に補完追肥を実施し、茎数・葉色が大きく回復しました。茎数が平年より少ない圃場もありますが、中干しがまだの場合は直ちに実施し、無効分げつの抑制と根の活力向上を図りましょう。

7月に高温続く予報を考慮すると、出穂期は2～3日程度早くなると見込まれています。穂肥は遅れず適量を施用しましょう。

「雪若丸」調査ほ場の生育状況（東南置賜）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	備考
高畠町	48.5	571	10.8	43.3	5/16 移植
米沢市	52.4	727	10.0	44.8	5/17 移植
川西町	42.8	493	10.0	43.7	5/27 移植
指 標	41.0	590	9.3	43.0	

補完追肥で茎数・葉色が回復

2 直ちに中干し・作溝を行いましょう！

- 中干しは田面に小ヒビが入る程度を基本とします。
- 生育量が大きい場合や、葉色が濃い場合は ⇒やや強めに
- 生育量が小さい場合や、葉色がさめかかっている場合は ⇒弱めに
- 作溝を行うことにより、出穂期～登熟期まで効率的な水管理ができます。

3 「雪若丸」の生育診断について

【前提条件】

- 中干しを行い、土壤環境を整え、上根を張らせ、穂肥のできる状態までイネを仕上げる。
- 幼穂形成期まで葉色（SPAD 値）を40未満に低下させない。
「はえぬき」より、生育量が多くても中干しの強度を上げすぎない。
※「雪若丸」の葉色は「はえぬき」より、全般に濃く推移する。
偏穂数型でm²茎数は「はえぬき」より、多くなる。
- 目標収量 600kg/10a、検査等級 1 等、玄米粗タンパク含有率 7.5%以下（乾物換算）とする。

予想出穂期 7/30～31 頃 → 穂肥時期の目安(出穂 25 日前) 7/5～6 頃

【生育診断のポイント】

○目標とする食味・収量・品質を確保するための生育指標（9.5 葉時）

茎数 750 本/m²（坪当たり 70 株植え：35 本/株）以下

葉色 44（SPAD 値）以下

※m²粒数を 30,000 粒程度とし、登熟を高めて、食味、品質を向上！

○穂肥は出穂 25 日前、窒素成分で 1.5kg/10a を基本とする。

生育診断結果により、次のように対応する

生育量	茎数	葉色 (SPAD)	追肥対応 (7 月 31 日出穂の場合)
生育不足	560 本/m ² 未満	40 未満	早めの穂肥 出穂 30 日～26 日前 (7 月 1 日～4 日頃) N 成分 1.5kg/10a
適 正	560～750 本/m ²	40～44	出穂 25 日前 (7 月 5 日頃) N 成分 1.5kg/10 a
生育過剰	750 本/m ² 以上	44 以上	出穂 25 日前 (7 月 5 日頃) 減肥対応 N 成分 1.0～1.2kg/10a

4 いもち病・斑点米カメムシ類の対策は万全に！

○いもち病の感染に好適な気象条件が出現+しており、葉いもちの蔓延に注意が必要です。圃場をよく見回り、**早期発見、早期防除**を徹底しましょう。

○イネ科雑草が繁茂している**畦畔・農道等の草刈りを地域ぐるみで徹底**し、斑点米カメムシ類の生息密度低減に努めましょう。また、水田内のノビエやイヌホタルイなどの雑草は斑点米カメムシ類の水田侵入・増殖を促します。**水田内の残草処理を徹底**しましょう。（※除草剤の使用の際は使用基準を遵守）

斑点米カメムシは「多い」予報

（6 月 25 日 発生予察情報第 4 号）

今すぐ草刈りを行い、斑点米カメムシ類の密度を減らしましょう！



アヒゲホトリカメ



アスジカメ

農作業事故・熱中症に注意！

◎「もうちょっと…」という無理が重大事故につながります。

◎暑い日が続きます。熱中症予防のために水分補給と休息をしっかりと取りましょう！

山形県農薬危害防止運動実施中！～農薬を使用する際は使用基準を再確認！その都度記帳！～